

テーラー《経営管理》

P 1 2 1 ~ 1 2 2

67 ページ. 〈改良〉のための条件《そのための期間は2—4年!!）…… 〈賃金が高いかわりに緊張して働く意欲のある、とくに高度な作業能力をもつ労働者幹部が養成されなければならないこと）…… 〈監督する職長や係員の数がすくなくとも2倍に増加すること）…… (67)

ゾイベルト《テーラー・システムの実践から》

P 1 2 4 ~ 1 2 5

工学士ルドルフ・ゾイベルト《テーラー・システムの実践から》. ベルリン, 1914 年.

著者は、とくにタボール・マニュファクチュアリング・コンパニー(フィラデルフィア)でテーラー・システムを8ヵ月研究したので、くわしい実際の記述を約束する.

……………(青山の略)

30 ページ, テーラー改革には〈平均して〉〈5年〉を必要とする. タボール・マニュファクチュアリング・コンパニーは、テーラー・システム採用の経費負担のため、〈崩壊に瀕した〉.

タボール・マニュファクチュアリング・コンパニーは、19世紀の90年代に創立された. 1904年にストライキ(勝ったと言ってもよいところの)がおこった. 事業は不振であった. テーラーは、組織者となるために、資金を立て替えることを提案した(32). 話がまとまった.

5年後に: 80%の生産増加

30%の原価引下げ

25%の賃金引上げ

1912年には 45人の労働者 (33)

48人 (!!sic!!!) の職員および職長 (通常 (1; 3))

(clerks) (会計係, 職員および職長)

それにつづいて〈鍵〉(略語), 定式, 規定, 指図などの写しがあり——極限に複雑なごた書きが無数にある, ……これを職員たちは〈タルムード〉と呼んでいる (35 ページ)

……

ある職員は、能率研究(時間研究)だけに従事している. これは、手のすべての運動等、すべての手の作業を研究し、改善する可能性をあたえている. (132)

…… 〈こうして、タボール・マニュファクチュアリング・コンパニーでは、NB(注意) 能率研究の結果として、なんらかの労働がその合目的性を再検査され、改良されない日はほとんどない、というほどに実際なっている〉 (107) .

各帝国主義の位置関係

帝国主義の問題によせて

P 1 6 6

たとえば；

I 3主要（完全に自立した）国

イギリス

ドイツ

合衆国

II 二流国

フランス

（一流国だが

ロシア

完全には自立していない）

日 本

これで6カ国

III イタリア

オーストリア=ハンガリー

社会主義のための闘争、改良と革命

ノート《δデルタ》

パンネクック 《支弁問題と帝国主義》

NB(注意) パンネクックが改良主義の問題を提起する仕方は誤っている。

NB パンネクックは、ここできわめて重要な問題をとりあげたが、しかし、それにま
ずい——すくなくとも不正確な——解答をあたえている。〈社会主義のための闘争と
改良のための闘争との統一〉、あるいは〈社会主義のための闘争と労働者の直接的利
益のための闘争との統一〉？ だが、社会主義のための闘争とはなにか？ パンネク
ックの定式では、左派と〈中央派〉との区別が、ぼかされ、拭いさられ、消えさつて
いる。パンネクックの定式(この)は、K.カウツキーも是認するであろう。(ついでな
がら、彼はパンネクックのこの論文を反駁しようとしなかった)。この定式は誤っ
ている。社会主義のための闘争は、労働者の直接的利益のための(したがって、改良
のための)闘争と、権力のための、ブルジョアジーを収奪し、ブルジョア政府とブル
ジョアジーを打倒するための革命的闘争との統一から成っている。

統一する必要があるのは、改良+社会主義という空文句、〈社会主義のための〉闘争で
はなく、二つの種類の闘争である。

たとえば、

1. 改良のための投票+大衆の革命的な行動……
2. 議会活動+デモンストレーション……

3.改良の要求+革命の(具体的な)要求……

組織されたもののための経済闘争ばかりではなく、未組織者や大衆と共同しての経済闘争……

4. 上層のための文献+下層のための、未組織者のための、〈下部大衆〉のための無料の大衆的文献……

5. 合法文献+非合法文献……

セイル. 日本対イギリス

P 369 ~ 371

ノート《レイオタ》

セイル. 日本対イギリス

《王立統計協会雑誌》, 第L X X I V卷,1911年4月号の非常に興味ぶかい論文. (37)
チャールズ・V・セイル《日本についての若干の統計》, 467 ~ 534 ページ
 連合王国との比較は、とくに教えられるところが多い.

	<u>日 本</u>	<u>連合王国</u>
面積 (平方マイル)	147648	121390
人口 (1910 年)	49587000	44538000
〃 1 平方マイルあたり	335	367
出生(1000 人について)	31.30	27.96
死亡 (〃)	<u>20.70</u>	<u>16.89</u>
増加 (〃)	+ 10.60	+ 11.06
穀物, 野菜, 工芸作物, その他	12894000 (エーカー) 13.6 %	12437000 = 16 %
草原および牧場	3006000 〃 3.2	34565000 = 44 %
森 林	55083000 〃 = 58.0	3070000 = 4 %
土地価格(+家畜, その他)	1299(百万ポンド) = 国富全体の 57 %	1220 = 11 %
生産 (1907 年)		(378)
米, 小麦, 大麦, 燕麦	= 372.8(百万ブッシェル)	307.3
じゃがいも	3.9(百万トン)	5.2
かぶら, スウェーデンかぶ	僅少	36.3(百万トン)
大 根	2.3(百万トン)	—
乾 草	僅少	15.6
飲料・食糧・タバコの純輸入	3.46(百万ポンド)	212.4
牛 (1908 年)	1.3(百万頭)	11.7

馬 (1908 年)	1.5 "	2.1
羊	87000 (= 0.08 百万)	31.3
豚	0.28(百万)	4.0
石炭坑内労働者数 (1908 年)	126999 人	796329
採掘される石炭	14.8 (百万トン)	261.5
坑夫 1 人あたり年間出炭量	117 トン	328
石炭価格	6.5(百万ポンド)	116.6
石炭 1 トンあたり価格	8 シリング 9 ペンス	8 シリング 11 ペンス
石炭輸出量	2.86 (百万トン)	62.55
輸出石炭 1 トンあたり価格	12 シリング 11 ペンス	12 シリング 8 ペンス
鉄道延長 (1908 年)	5020 マイル	23280 マイル
乗客 (百万人)	146.9	1265.1
貨物輸送 (百万トン)	25.4	499.9
総収入 (鉄道線路 1 マイルあたり)	1690 ポンド	4854
経 費 (" ")	<u>868</u>	<u>3133</u>
純収入 (" ")	+ 822	+ 1721
汽 船 (総トン数 100 トン以上)	1146977	18059037
中国港への寄航船 1902 年	7350 (13.6 %)	26950 (49.9 %)
(千トン) 1909 年	18949 (21.8 %)	34027 (39.2 %)
繊維製品総生産価格 (1907 年)	37.77 (百万ポンド)	247.27
労働者	355000 人	808398
労働者 1 人あたり価格	106 ポンド	306 ポンド
輸入+輸出 1889 年	20.99 (百万ポンド)	744.0
(再輸出をふくむ) 1909 年	82.35	1094.0
同上 1 人あたり 1899 年	10 シリング 6 ペンス	19 ポンド 19 シリング 10 ペンス
1909 年	1 ポンド 12 シリング 10 ペンス	22 ポンド 5 シリング 8 ペンス
国家支出 (1909 年)	64.9 (百万ポンド)	152.3
郵便貯金 (1909 年)		
預金者数	8.66 (百万人)	11.1
総 額	10.8 (百万ポンド)	160.6
預金者 1 人あたり預金額	1 ポンド 5 シリング 1 ペンス	14 ポンド 11 シリング 7 ペンス
農産物価格	126 (百万ポンド)	174.8
農場労働者数 (自作農もふくむ)	11.50 (百万人)	2.05
N B (注意) <連合王国では、労働者数 1/5 以下で [日本とくらべて] 生産物はより多く、またその価格は 40 % も高い> (488 ページ) ……		

日本の農業は独自性にとんでいる。佳民の 60 % が農業に従事している (481 ページ)。日本の総戸数 (hausenholds) は 9 250 000 である。そのうち専業農家——3 748 000 戸。兼

業農家——1 662 000 戸。その他の農家——70 000 戸。地主= 43 000 戸。Σ = 5 523 000 戸。

土地課税は非常に重い。農業は極度に零細である。

%であらわした経営数(482 ページ)

経営面積. 1 4/1 エーカー(5 反未満)	37.26
1 4/1 エーカー以上 2 1/2 エーカー未満(5 反-1町)	32.61
2 1/2 エーカー以上 5 エーカー未満(1 町-2 町)	19.62
5 エーカー以上 12 1/4 エーカー未満(2 町-5町)	9.37
12 1/4 エーカー以上(5 町以上).....	1.14
	100. 00

農業労働の生産性は、主として小農経営と機械の欠如の結果、極度に低い。 (380)

日本では、1 エーカーあたりの米の生産には、110 日の労働が必要とされている。

テキサス州とルイジアナ州では、1 エーカーあたりの米の生産には、1 人 2 日 + 連畜 1 1/2 日が必要とされるだけである。

(《アメリカ経済協会雑誌》，1904 年 11 月号)